

SWIFTNetに接続する共同利用型ユーティリティ

野村総合研究所 矢野 整

いま金融機関では、取引のスピードアップ、業務効率化のため、取引から決済までの全プロセスを電子化するSTP（全電子処理）に取り組んでいる。しかし、そのために必要なSWIFTNetとの接続システムを独自に構築・運用するのは負担が大きい。本稿ではこうした問題を解決するNRI（野村総合研究所）のソリューションを紹介する。

サービス範囲を広げるSWIFTNet

銀行間での決済・付替、顧客送金などのメッセージ通信を担う決済ネットワークとして欧州に端を発したSWIFT（国際銀行間通信協会）のネットワーク（SWIFTNet）は、日本でも100を超える銀行により利用されている。またSWIFTNetは証券取引においても、たとえば信託銀行の資産管理業務において、海外カストディアン（海外での証券保管と決済を行う業者）との通信を行うためのネットワークとして利用されている。

SWIFTでは現在、取引から決済までの証券業務プロセス全般への対応に取り組んでいる。また、ISO15022として標準化された新証券メッセージのSWIFTNetへの適用や、フロントオフィス業務（取引交渉から発注）で用いられる通信手順の業界標準であるFIX（Financial Information eXchange）プロトコルの適用も進めており、その動向が注目される。とくに上記のようにSWIFTNetが証券業務プロセス全般へ対応しつつあることから、証券取引に関わる金融機関にとって、国際間取引のSTP化を進める上で、ますます重要な外部ネットワークとなっていくと思われる。

SWIFTNet利用上の問題点

しかしユーザーにとって、SWIFTNetを利用する上では次のような問題点もある。

専用システムが必要

SWIFTNetに接続するためにはインタフェースを受け持つSWIFT CBT（専用のソフトウェアとそれを稼動させるためのハードウェア）の導入が必要であり、システムの運用負荷が発生する。

専門知識が必要で人材が固定化する

SWIFT CBTを使いこなすためには、ICC（個人認証カード）と呼ばれるカードの利用やセッションキーの取得など、オペレーションに独自の知識を要する。これらの知識を修得しているユーザーは金融機関内でも限られているため人材の固定化が避けられない。

バージョンアップへの対応が必要

1年に一度、定例変更と呼ばれるソフトウェアのバージョンアップがあり、これに対応するための作業が発生する。社内システムに接続している場合には同時に社内システムの変更も必要になる。

災害対策サイトの設置が必要

昨今、金融機関においてはシステムダウン

に対する対策などが強く求められており、SWIFTも災害対策サイトの設置を強く推奨している。しかしそのためにはユーザーにとってコスト的に負荷が大きい。

プロトコル変更によるコストが発生

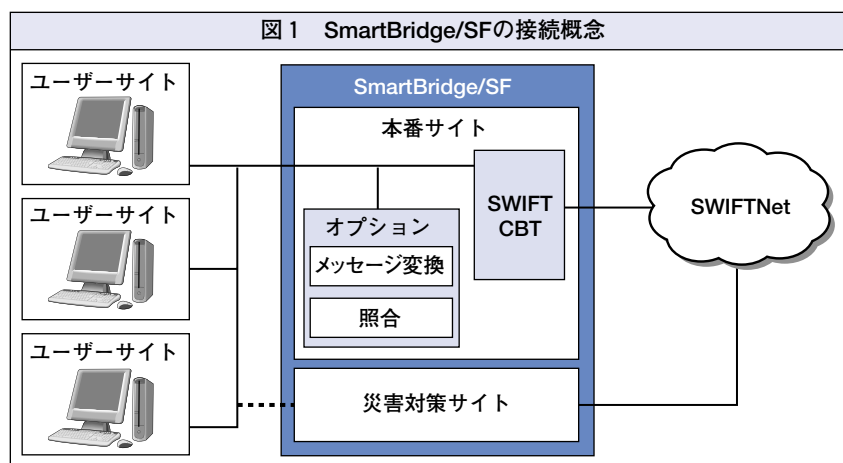
リアルタイムの通信に対応するため、プロトコルをパケット交換用のX.25プロトコルからIP（インターネットプロトコル）に変更した次世代SWIFTNetへの変更が日本でも予定されている（2003年11月から移行を開始し2004年末までに完了予定）。これにともなってユーザーには一時コストが発生する上、ランニングコストも現在より増加する。

標準メッセージへの対応が必要

SWIFTNetで利用されているISO15022メッセージは、日銀RTGS（即時グロス決済）でも利用が予定されているように、今後、証券取引の標準メッセージとなるものとみられる。これに対応するためには、現行のシステムを引き続き更新する必要が生じるが、その都度、各ユーザーに負荷がかかることが予想される。

外部接続サービス「SmartBridge/SF」

STP化の実現には外部ネットワークとの接



続が必須となるが、そのために必要な機能はどの金融機関にとっても同じである。したがって、接続システムはユーティリティとして共同で利用するほうが合理的である。

このようなニーズに応え、また前記の問題点を解決するため、NRIではSWIFTNet FIN 接続共同利用型サービス「SmartBridge/SF」（図1参照）を提供する。このサービスでは、ユーザーである金融機関の接続システムの共同利用を可能にするとともに、ユーザーに負担となっているオペレーションの一部も代行する。また、オプションサービスとしてメッセージ変換機能（各社独自フォーマットとSWIFTメッセージフォーマットの変換）、リコンサイル（受託銀行と海外保管銀行間での資金・証券残高の照合）などの照合サービスも提供している。

すべてのユーザーが必要とするようなユーティリティの共同利用は、システムコストを抑制する上で有用な選択と言えよう。 ■